

宝物はすぐそばに

校内研通信

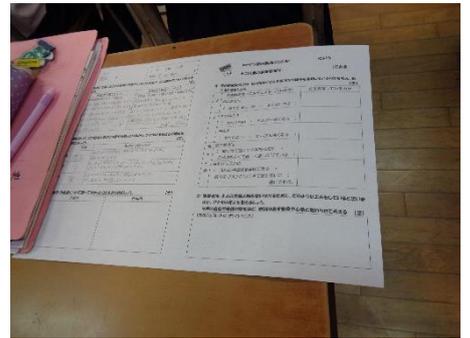
第34号

R7.12.3

発行者:校内研担当 仲村智

あなたの想像する魔王はクッパかピッコロか

12月3日(水)2校時、1年8組にて平良優奈先生が音楽の授業を公開しました。本時は鑑賞の授業で、音楽の特徴を感じ取り、登場人物を予想して聴くことがねらいです。題材はシューベルトの“魔王”で、私自身の遙か遠い記憶の中にも、中学校時代その内容に衝撃を受けながら曲を聴いた思いが蘇ってきました。最初の導入で鑑賞の授業の決まりや、曲名を伏せた状態での鑑賞のポイントなどを丁寧に確認することで、曲だけで感じていることを言語化していくという難しい作業も、生徒は思いのままに自分なりの意見を書くことができました。その後、ドイツ語の歌詞や登場人物、誰台詞なのかのヒントも段階的に与えながら人物を予想していきます。大人の私でも難しい挑戦でしたが、生徒も真剣になって予想し楽しんでいる様子。人の感じ方は様々といえども、音楽の鑑賞の大切さを実感させる素敵な授業でした。優奈先生、初任研もあとひと息、頑張ってくださいね😊



RS
みつけた!

本日の

キーワード

「聞く」と「聴く」

聞く: 環境やBGM、または偶然に耳に入る音など、受動的な行為を意味する。

例えば、カフェで流れる音楽や通りすがりの会話など。

聴く: 意識的に耳を傾け、内容を正確に理解しようとする能動的な行為。

例えば、コンサートや抗議、重要な会話など。

音楽鑑賞の授業とリーディングスキルの関係

認知能力と言語能力の発達: 音楽学習は脳を刺激し、論理的思考や言語理解に関わる認知能力の発達に寄与する可能性があります。また、歌詞や音を通して言語感覚を養い、語彙力や文法の理解を深めることが、読解力向上につながると考えられています。

「聴く力」の育成: 音楽鑑賞で培われる「聴く力」は、他者の話を理解し、思考や創造力を高める基礎となり、読解力にも良い影響を与えます。

学習プロセスの共通性: 音楽と国語の授業には、作品を理解するための段階的な学習プロセスに共通点があり、これが教科を超えた読解スキルの育成につながる可能性が指摘されています。